

【解説】私（記者）の体験では、ケムトレイルに気付いている日本人は少ない。しかしここ数カ月、散布の量と頻度が明らかに増えたせいか、ネット上ではかなり注目されるようになった。ケムトレイルの「なぜ」ということが、本当のところ分からないがゆえに、気味が悪いのである。敗退しようとする暗黒集団の「最後の悪あがき」と取りたいが、それにしては十分な準備の上に計画された長期作戦のように見える。

見るも恐ろしい写真が一枚入っているが、このような実態を更に知りたい向きは、ユーチューブ Part 1-3 Breaking!!! Dane Wiggington Exposes Chemtrails over the USA をご覧になるとよい。

長編映画としてすぐれているのは、What in the world are they spraying? さらにこれを受けて最近作られた Multilingual--Why in the world are they spraying? (日本語字幕あり)ではなかろうか？ 日本人の作ったユーチューブで、私が今の時点で人に勧めているのは、ある女性が関係省庁に電話で質問する内容の「ケムトレイル集中散布1～8」である。

ケムトレイル：あまり知られていない恐るべき事実

David Richards (henrymakow.com)

April 2, 2013



人間殺虫剤？

「過去10年間にアメリカで、呼吸器疾患が、最も高い死亡原因の8位から3位に上がった。喘息の率も西洋世界で倍以上になり、アルミニウム毒によって引き起こされるアルツハイ

マー病もまた異常に増えている。」

もし我々が団結してこの悪行を止めさせなければ、我々はこのまま滅びるしかない。

近年、ケムトレイルへの認識が高まってきた。抗議行動が組織され、映画が公開され、警告者が前面に出てくるようになった。非常に意味深いことに、前ロサンゼルスFBI局長の Ted Gunderson がビデオを製作し、2011年に死ぬ少し前にケムトレイルを弾劾したのだ。

激しい散布は90年代後半にNATO諸国で始まった。しかし今日ではケムトレイルは、ロシアからブラジル、韓国からキューバと、ほとんどあらゆる所で記録されている。これは異常な規模と深刻さをもつプログラムである。しかし我々は、ケムトレイル計画が存在することを知ってはいるが、それがどのように作用し、その目的は何かについては、確かな情報がほとんどない。

私はケムトレイルの調査を続けてきて、いまだ全体像は掴んではいないものの、ここに提供する情報はいくつかの穴を開けるものと信ずる。

ほとんどの政治家は我々と同様に無関心である。前CIAとNSA局員であるA.C.Griffinはこう言っている、「CIA計画に使われる金は、必ずしも議会の歳出承認を得たものではない。議員は全体として、このエアロゾル計画に完全に無関心である。彼らは質問するのが怖いのだ。」

内側においてこのプログラムに反対する者は罰せられる。「このエアロゾルを考案した重要人物の一人は、いま連邦刑務所に入っている。彼らは今でも彼のところへ質問しに行っている。」



グリフィンはまだ、クリントン時代の海軍作戦計画の主任であった Jeremy Boorda (上)

が、この計画に反対したために殺されたことを暴露している。ブアダは1996年、胸に3発の銃弾を受けて死んでいるのが発見された。当局はすぐさま彼が自殺したと主張し、陰視の結果は決して公表されなかった。

営業用機も散布に関わっている。初めのころは、エアロゾルはもっぱら軍用機によって撒かれていたが、今はこのプログラムは拡張されて、営業用機がエアロゾル散布用の一式を備え、それはコンピューターや衛星によって操作されている。下の写真（アメリカ上空を飛ぶルフトハンザ・ジェット機）がその証拠だ。



航空機業界では、この作戦は「クローバーフィールド計画」と呼ばれている。2000年、あるアメリカの航空会社の重役が明かしたところによると、ある時2人の部署不明の政府の役人が彼のオフィスを訪れた：——

「彼らは私たちに、政府は、他の航空会社にもお願いしているが、私たちに料金を払って、営業用機から特別の化学物質を撒かせてもらうことになった、と言いました。その化学物質は何であり、なぜそれを私たちが撒くのかと訊くと、情報は「必要でない限り秘密」の原則であり、答える許可を与えられていない、ということでした。私たちは秘密厳守の契約書にサインさせられましたが、その内容は要するに、私たちが知っていることを他者に洩らした場合は、刑務所行きになるというものでした。」

営業用機を使って撒くということは、多くの国家が撒かれることに合意しておらず、それがなされていることに気付いてさえいない可能性を示唆する。

気象操作は毎日おこなわれている。ケムトレイルはHAARPとつながり、ジオ・エンジニアリング（気象操作の専門用語）のために用いられている。敵に対して地震や津波のような災害をつくり出すそれらの能力については、多くのことが書かれているが、我々は気象パターンが常に操作されていることは理解していない。Scott Stevens はアメリカのTV気象予報士だったが、これがほとんど日常ベースで起こっていることが分かって、その

職を退いた。

食料ギャンブル：“気象デリバティブ（派生利益）”

地球温暖化は、世界的に次第に厳しく奇怪なものになっていく気象を説明するための概念である。

ジオ・エンジニアリングは、遺伝子操作した作物を世界に強制するために用いられる。人工の洪水や旱魃（ひでり）は、作物に被害を与え、農民を失業させる。

モンサント社は、旱魃や洪水に強いだけでなく、ケムトレイルの主要メタルの1つであるアルミニウムの毒性にも効果をもつ遺伝子組み換え種子の特許をもっている。遺伝子組み換え作物を拒否する農民はすべて、良い収穫を得る保証がなく、失業することになる。もっと悪いことは、モンサント社の“終末ゲーム”が「ターミネーター・シード」と呼ばれるものを、世界中の農民に強制することである。これらの作物は種をつくらず、それは農家が植え付け時期ごとに、モンサント社から新しい種を買わねばならないということの意味する！

「気象デリバティブ」はケムトレイル保険である。あなたは大きな賭博師が、どうやって気象戦争から自分たちの利益を守るのか、不思議に思うかもしれない。例えば、アメリカの何千エーカーの農地をもっている George Soros は、どうやって操作された旱魃から彼の利益を守っているのだろうか？

諸会社は、不利な気象条件のリスクから身を守るために、いろんな金融的方法を用いている。そうした方法は 90 年代後半に、激しい散布が始まると同時に現れている！ シカゴ・マーカントイル取引所の取引商 Michael Agne は、彼らの仕事をこう説明している：——

「ある特定の時間枠内に、特定の場所で、気象被害があるだろうと賭けをするのです。そしてそれが現実になった時に、大きな利益が上がるというわけです。」

明らかに、インサイダーたちは、ジオ・エンジニアリングの予定表に基づいて賭けをすれば、大儲けができるわけだ。

病気のため頼ってくる人々を創り出す

ケムトレイルは“徐々に殺す”作戦だ。徐々に殺す攻撃は、敵を殺すのではなく、不能にし

弱らせるのが主たる狙いである。Len Horowitz 博士が説明したように、戦争はインフラストラクチャーを破壊するから、人口を減らすのに効果的な方法ではない。より望ましいシナリオは、健康のために、軍-医薬-産業複合体を頼らなければならない病人たちを創り出すことだ。この方法によって、あなたは人口制御を行い、その過程で巨大な富を手にし、インフラストラクチャーは無傷のまま残せる。

ケムトレイルは剣先のいくつもある攻撃なのだ。

第一に、エアロゾルに用いられる metallic salts は毒性が強く、それを排出するには、我々の身体が恐るべき量のエネルギーを消費しなければならない。何百万の人々にとってそれは不可能だ。過去 10 年間にアメリカで、呼吸器疾患は、最も多い死亡原因の 8 位から 3 位に上がり、喘息の率は西洋世界で 2 倍以上になり、アルミニウムの毒性によって起きるアルツハイマー病もまた、異常な増え方をしている。

第二に、それは諸々の病因を撒いている。ある高位の軍インサイダーは、バクテリアやウイルスが、フリーズ・ドライの状態で微細なフィラメントに付着させられ、撒かれていると言っている。病気を付けて拡散した諸々のメタルは、太陽によって熱せられ、バクテリアやウイルスが繁栄するのに好都合な環境を空中につくり出す。

第三に、ケムトレイルには、ナノテクノロジーの兵器が含まれている。驚くべきことに、この事実は、代替メディアにおいても、あまりにも取り上げられていない。それは Hildegard Staninger 博士や、かつて政府の科学者であった Clifford Carnicom のような研究者によって、十分に証明されているのだ。

このナノテクは、基本的にバイオ・ロボットである遺伝子組み換え生物からなっている。我々がこれを吸い込むと、それらは我々の体内に住みこみ、寄生して生きる。感染が進むと、その人は「モルゲロンス病」Morgellons disease と呼ばれるものを発症する。

(<http://www.morgellonsexposed.com/Chemtrails&Morgellons.htm>)



患者は体力がなくなり、何もすることができず、奇怪でぞっとするような症状に苦しむ—
—治らないかさぶた、毛が抜けて別の毛のようなものが生える、皮膚の下を絶えず何か
這う感じ、など。

モルゲロンスは、過去 10 年間に出現した新しい症状で、濃密散布が始まったのと同時に現
れている！ アメリカだけでも 60,000+ の患者がいると推定される。彼らの症状は
Morgellons Research Foundation によって最初から記録されている。

バイオ戦争

エアロゾルに含まれるこのナノテクノロジーは、遺伝子を組み換えた赤血球を創り出して
いるという証拠がある。クリフォード・カーニコムはこれらの細胞を、大気中にも、テス
トするほとんどの人々の血液サンプルにも発見している。それらは通常の赤血球とは全く
違っている。それらは体外の培養皿の中でも成長し、高温に耐え、酸に浸されても死なな
い。これが高度に進んだバイオ戦争になることは明らかだ！

それが何の役に立つのか我々にはわからない。しかし答えは、トランス・ヒューマニズム
運動のビッグネームの一人、Ray Kurtwell が用意しているかもしれない。最近の講演で彼
はこう言っている、「今後 25 年の間に、我々は血液細胞サイズの装置をもつようになり、
これを身体に入れると、それは内側からあなたの健康を保ち、脳に入っていくって生物学的
ニューロンと相互作用し、我々の生物学的知性と融合するかもしれない。」

体制派科学者が、確信をもって、何かが存在するようになると我々に語るときには、それ

はすでに存在していると考えてよい。カートウェルが言っている「血液細胞サイズの装置」とは、いま発見されている兵器化された赤血球のことで、マインド変化がいま進行中だという可能性はありうる。

犯罪者たちはどうやって自分を守るのだろうか？ イルミナティは、自分たちの安全がまず確保されていなければ決して攻撃に出ることはない。例えばブッシュ大統領は、2001年の炭疽（たんそ）病攻撃の2週間前に、炭疽ワクチンを受けていた。彼らは日に一度、彼らの血流から毒物を取り除く溶解剤を飲むかもしれない。それとも微小な透析機として働くチップを腕に埋め込んでいるかもしれない。

この作戦に関わっている多くの人たちは、おそらく本当のアジェンダを知らないであろう。Bill Deagle 博士はバックリーの空軍基地で働いていた医者だが、エアロゾルを散布していたパイロットたちを治療していたと言っている——「彼らの95%は、自分たちは太陽光を反射させて、地球温暖化を防ぐために散布しているのだと言っていました。彼らのほとんどは、そんな馬鹿げた嘘を信ずるほど馬鹿だということです。」

結論

イルミナティは空を野蛮に汚しまくっている。これは、落書きアーティストたちが壁をスプレーで汚しているのと同じくらい明らかだ。にもかかわらず、我々の大多数は気付かないか知らぬ顔をしている。他のものとは違ってケムトレイルは、いかに我々の置かれた状況が、絶望的にひどいものであるかを突きつけるものだ。

にもかかわらず、反ケムトレイル活動はかなりの潜在力をもっていると私は考えている。ケムトレイル作戦の存在は容易く証明でき、我々は多くの警告者の証言をもっている。ケムトレイルはこの先まだ何十年も続くであろうから、この抗議運動は勢いを増しつづけていくものと思われる。

(デイヴィド・リチャーズ、24歳、はモンゴルで英語を教えている常連寄稿者)